

⑯ 日本国特許庁 (JP) ⑮ 特許出願公開
⑯ 公開特許公報 (A) 昭57-177762

⑮ Int. Cl.³
A 61 M 5/18
5/20

識別記号 厅内整理番号
6408-4C
6408-4C

⑯公開 昭和57年(1982)11月1日
発明の数 1
審査請求 未請求

(全 6 頁)

⑩液体注入装置

⑪特 願 昭57-55264
⑫出 願 昭57(1982)4月2日
優先権主張 ⑬1981年4月10日 ⑭米国(US)
⑮252779
⑮發明者 ウィリアム・ペイ・マイフィールド
アメリカ合衆国カリフォルニア

州92627コスタ・メサ・タステイン・アベニュー1939
⑮出願人 パーカー・ハニフайн・コーポレーション
アメリカ合衆国オハイオ州44112クリーブランド・ユークリッド・アベニュー
⑮代理 人 弁理士 伊藤貞

明細書

発明の名称 液体注入装置

特許請求の範囲

- 可変容積の圧潰自在貯蔵器、出口、上記貯蔵器と上記出口の間に配置したポンプを有し、上記ポンプはポンプハウジングと可変容積ポンプ室、少なくとも上記ポンプ室の一部分を限定し且つ上記ポンプハウジングに対して可動で上記ポンプ室の容積を変更する可動手段を含み、上記可動手段は電磁材料より成るソレノイドアーマチュアを含んでいる液体注入装置。
- 特許請求の範囲第1項記載の装置において、再使用自在の制御器を含み、上記貯蔵器及びポンプ及び出口は使いすぎて自在のカートリッジであり、而して上記再使用自在の制御器と上記使いすぎてカートリッジを貯放自在に連結する手段を含むことを特徴とする装置。
- 特許請求の範囲第2項記載の装置において、上記再使用制御器が電磁ソレノイドコア及びソレノイドコイル、上記ソレノイドコアに対し所

定の位置に配置した第1整列表面を含み、上記使いすぎてカートリッジは上記アーマチュアに対し所定の位置に配置した第2整列表面を含み、而して上記第1及び第2整列表面は相互に係合して上記コアに対し上記アーマチュアを正確に位置せしめることを特徴とする装置。

- 特許請求の範囲第3項記載の装置において、上記貯放自在に連結する手段は、上記第2整列表面を上記第1整列表面に対して弾性的に片寄せするばねを含むことを特徴とする装置。
- 特許請求の範囲第3項又は第4項記載の装置において、上記再使用制御器はハウジングを含み、上記ハウジングはソレノイドコンパートメント及び使いすぎてカートリッジコンパートメントを含み、上記使いすぎてカートリッジコンパートメントは少なくともその横巾の約2倍より小さくない長さをもち、上記ソレノイドコイルとソレノイドコアは上記ソレノイドコンパートメント内に配置され、上記ソレノイドコンパートメントは上記使いすぎてカートリッジコンパート

メントの1端に接続し、而して上記使いすてカートリッジは上記使いすてカートリッジコンパートメント内に上記ポンプを上記ソレノイドコンパートメントに接続して位置したことを特徴とする装置。

6. 特許請求の範囲第1項記載の装置において、上記アーマチュアに対し所定の位置に配置され上記アーマチュアをソレノイドコアに対して正確に位置せしめる芯合せ表面手段を含むことを特徴とする装置。
7. 特許請求の範囲第1項から第6項のいずれか1項記載の装置において、上記可動手段は、上記ポンプ室の最少容積形状を限定する第1位置と、上記ポンプ室の最大容積形状を限定する第2位置とをもち、更に上記可動手段を上記第1位置の方へ弾性的に片寄せするばね手段を有することを特徴とする装置。
8. 特許請求の範囲第1項から第7項のいずれか1項記載の装置において、上記ポンプハウジングはボアを限定し、ピストンが上記ボアの中に

方向に伸びることを特徴とする装置。

発明の詳細な説明

本発明は薬剤注入装置に係る。以下に説明する如く本発明は液体薬剤の制御された分量を人体又は動物の体内に正確に且つ便利に注入する小型の体外薬剤注入装置を提供する。

液体薬剤（本発明の目的とする液体薬剤は、治療又は診断の目的で人体又は動物の体内に注入される液体を意味する）は従来皮下注射器によつて行われてきた。もし多数の液体薬剤投与の必要なときは、その多数の投与は数日又は数時間という時間間隔で行われる。

最近になつて、若干の薬剤の効力は極端な小量を頻繁に注入することによつて増強されることが認められてきた。この目的に対する薬剤注入装置は、米国特許第4191181, 45150672, 4215689及び3858581号に開示されている。加えて、また米国特許第4201207号に開示された、液体薬剤を一定流速で注入する装置も提供されている。

本発明はこれらの発明及びその他の先行装置か

配設され、上記ピストンは上記ポンプ室の最少容積形状を限定する第1位置と上記ポンプ室の最大容積形状を限定する第2位置をもち、而して環状エラストマーシール手段は上記ピストンと上記ボアに密封的に保合し且つ上記第1位置から上記第2位置までの運動全体に対し弾性変形により適応することを特徴とする装置。

9. 特許請求の範囲第1項から第8項のいずれか1項記載の装置において、上記貯蔵器と上記ポンプ室の間に配置した第1逆止弁と上記ポンプ室と上記出口の間に配置した第2逆止弁を含むことを特徴とする装置。
10. 特許請求の範囲第9項記載の装置において、少なくとも上記逆止弁の1つが略々円板状基台、上記基台の1側にある環状の弁シート、上記基台の他の側上に配設され半径方向に伸びた複数個のばねの指、及び上記基台の上記反対側に配設され軸方向に伸びた複数個の停止体部材を有する一体構造であり、上記停止体部材が上記半径方向に伸びたばね指の隣接するものの間に軸

ら出発し、使用容易且つ便利であり、管理された液体薬剤の投与の正確な制御を可能とする体外薬剤注入装置を提供するものである。

本発明の好適なる実施例においては、本体外薬剤注入装置は再使用部分と使いすて部分とを含む。該再使用部分は、堅牢なケース、バッテリ電源及びプログラマブル電子制御器を含む。該再使用部分はまた電磁ソレノイドコア及び電磁ソレノイドコイルを含み、これは該制御器から電気信号を受けて磁気駆動力を発生する。

以下に記載の本注入装置の使いすて部分は、該液体薬剤を貯蔵するための圧搾自在の貯蔵器を含む。この使いすて部分はまた使いすてポンプを含み、これは該液体薬剤を与えるべき人体又は動物の体内へ該薬剤をポンプで輸送する。該ポンプは入口及び逆止弁をもつたポンプ室と、電磁アーマチュアを含み、これは該コイルの磁気駆動力に対応して該室の容積を変更する手段を提供する。

該使いすて部分と再使用部分はまたそれぞれ所定位置に設けた正確な整列表面を含む。該使いす

て部分が貯放自在に該再使用部分のケースの中に固定されたとき、該使いすて部分の該整列表面は該再使用部分の対応する整列表面と保合する。このようにして、使いすて部分のアーマチュアは、該再使用部分にあるコアから所定距離だけ離間してそれと正確に一直線上に来る。該電気信号が該制御器から該コイルへ与えられたとき、該磁気力がこの所定の距離を介して該アーマチュアに運動を与える。該電気信号がなくなつたとき、板ばねが該アーマチュアをその休止の位置に戻す。

本発明のこの好適なる実施例は、本装置を引続き使用中該使いすて部分を周期的に交換するときは、該アーマチュアの運動とポンプの対応するストロークとが常に同じであることを保証する。加えて、該ポンプは、各ポンプサイタルの完了時に該ポンプを休止の位置へ戻す板ばねの積極的作用を利用するから、該戻りストローク及びポンプ出力圧力は同様に正確に制御される。なおさらに、本発明に係る薬剤注入装置は使用便利且つ容易であり、而して貯蔵ポンプを液体薬剤の入つた別の

薬瓶から充填するか又は使用に最大の便宜及び容易のため予め充填した使いすて部分を購入するかは使用者の隨意選択し得るものとなつてゐる。

以下好適なる実施例について図面を参照しながら本発明を説明しよう。

第1図は、本発明に係る体外薬剤注入装置01を示す。本発明に係る薬剤注入装置01は小型（略々長さ6.4cm、巾2.6cm及び厚さ1.3cm）で、軽量（約70gr）で、使用者のポケットの中に入れ又は使用者の身体にテープで止め又は帯板で止めて携帯できる。本薬剤注入装置01は以下に一層詳細に説明する如く、液体薬剤の貯蔵容器を保持し、この液体薬剤を使用者の体内へプログラムされた割合で分配する手段を具備する。

第1及び第4図について、本薬剤注入装置01は再使用部分01及び使いすて部分02を含む。該再使用部分01は数年の期間にわたつて、液体薬剤を使用者の体内に分配するため反復利用し得る。使いすて部分02は、装置の保持する液体薬剤の所定量を分配するのに使用した後すて去り、液体薬剤の

新しい分量を持つた新規な使いすて部分と交換される。

なお第1及び第4図について、再使用部分01は堅牢なプラスチックケース03を含む。ケース03は頂上壁04、底壁05、端壁06及び内部分割壁07を含む。壁（16-19）はすべて略々同一厚さ及び同一材料より成る。頂上壁04は使いすて部分02を出し入れするための除去自在のパネル08と、バッテリ09を出し入れするための除去自在のパネル08を含み、このバッテリ09は本薬剤注入装置01の電源である。除去自在パネル08及び09は周知の方法により、適宜止め具（図示せず）により固定される。

再使用部分01はまたプログラム電子制御器09を含み、これはバッテリ09から電力を受け、バッテリ09また電気エネルギーをソレノイド10に供給する。

ソレノイド10はコイル11を含み、これは電磁コア12上にあつて制御器09によりプログラムに従つてエネルギーの供給を受ける。コア12は第10図に拡大して示す如く、磁性材料（マルテンサイトステンレス鋼の如き）より成りまた既してB形状で

ある。コア12は壁面、凹及び凸を含み、これらは以下に一層詳細に説明する如くアーマチュアに對向する。端壁凹及び凸は同一平面上にあり、端壁凹は壁面及び凸の存在する平面より僅かに凹んでよく、よつてコイル11の駆動後、アーマチュアの貯放を容易とする。

4つの同一の整列棒03はその中3つのみを第10図に示してあるが、コア12の反対側の類似の場所に固定される。整列棒03はそれぞれ非磁性材料（オーステナイトステンレス鋼の如き）より成り、且つコア12の第10図示の如き位置に接続される。整列棒03はそれぞれ正確な整列表面04を含み、これらの整列表面04は同一平面上にある。これら整列表面04を配置した平面は、コア表面凹及び凸を配置した平面から所定の距離だけ離間し、これら2つの平面間の垂直距離はポンプのストロークであり、これについては以下に更に一層詳細に説明する。

第1図について、本薬剤注入装置はまた交換自在の針と連通管組立体06を含む。この組立体06は

使いすて部分⑫にねじ締手⑬により連結される。それゆえ針と連通管組立体⑭は、使いすて部分⑫が交換されるべきときに使いすて部分⑫から取り外す。

第1, 2及び3図について、使いすて部分⑫は貯蔵器⑮、ポンプ⑯及び電磁アーマチュア⑰を含む。貯蔵器⑮は圧止自在のプラスチックバック⑯を含み、これは円筒形プラスチックハウジング⑮の内部に固定され且つプラスチック端壁的に密封的に付着される。圧止自在のバック⑯は分配されるべき薬剤を隔壁切を通して注入充填される。

ポンプ⑯はポンプハウジング⑯を含み、これは入口通路⑰、出口通路⑰及びポンプ室切を限定する。ポンプ⑯はまた入口及び出口通路⑰及び⑰内に置かれた逆止弁⑯を含む。逆止弁⑯は、第6及び7図に一層詳細に示す如く、プラスチックの一体構造であり、且つ基台⑮を含む。好適なる実施例においては、これらの逆止弁はジエネラルエレクトリック社で“レクサン”(Lexan)なる商標を付して販売している如き熱可塑性カーボネート結

合のポリマーより成るか又はクライノロインダストリーズ社で“クライオライトG-20”(Cryolite G-20)なる商標を付して販売している如きアクリリックポリマー樹脂より成る。基台⑮の1側面から環状シート⑯が突出して該通路内の隣接表面と密封結合をなす。複数個の板ばね部分⑯が基台⑮の中央ハブから突出してシート⑯をその隣接表面に押圧するばね力を与える。相隣る板ばね⑯の間に配設され軸方向に伸びた複数個の停止体切は、基台⑮からシート⑯と反対方向に伸びて、逆止弁⑯が開いたときシート⑯の隣接表面から離間する行程を制御する。

第3, 8及び9図について、ポンプ⑯は更にピストン⑰を含み、これはポンプ室と該通路⑰及び⑰の軸と垂直方向に交差するボアの中を往復運動する。ピストン⑰はプラスチック構造であり、該ボアの壁に対してO-リングシール切により密封結合する。O-リングシール切はピストン⑰の外周表面内の溝の中に圧縮されて、ピストン⑰又はボアに対し滑動しないように寸度を与え配設する。

その代りに、O-リングシール切は充分な弾性を有し、ピストン⑰は充分に小さいので、O-リング切の弾性変形は、ピストン⑰のボア内の全ストロークに対して充分適応できる。

マルテンサイトステンレス鋼の如き磁性材料より成る電磁アーマチュア⑰は、底表面から突出している杆部分を含み、これはピストン⑰内のボアと堅固な嵌合を行つてある。このように、アーマチュア⑰は堅固にピストン⑰に連結されているので、アーマチュア⑰の運動はピストン⑰の対応運動を発生する。2つの適當なばね休止体切はその1つだけを第8及び9図に示してあるが、アーマチュア⑰から反対方向に突出している。2つの同一の板ばね切がポンプハウジング⑯の各側面に見えられ、ポンプハウジング⑯とばね休止体切の間で作用してピストン⑰を図示の休止位置に押進める。

第8図示の如く、ポンプハウジング⑯はまた整列表面切を含む。整列表面切は相互に同一平面上にあり、アーマチュア⑰の頂上表面と同一平面上

にある。ポンプ⑯を製造するとき、この同一平面上という関係は、先ず整列表面切をアーマチュア⑰の頂上表面より突出せしめ次にアーマチュア⑰とばね切をポンプハウジング⑯に組立てた後にも、該表面切を溶解するか研磨してアーマチュア⑰の頂上表面と同一平面關係とすることにより達成される。

第3及び4図において、使いすて部分⑫は、除去自在のパネル切を開いてケース⑮の中に駆除自在に組立てる。使いすて部分⑫は次にケース⑮の中に入り、ポンプハウジング⑯の整列表面切(第8図)がコア⑮の整列表面切(第10図)と接触するよう、挿入される。この接触は適當な板ばね切(第4及び5図を参照)により維持される。パネル切が除去されたとき、ケース⑮の開放端スロット内に塵埃により吸容された、エラストマーのクロメット切は、使いすて部分⑫を再使用部分⑫に對して軸方向に運動しないように固定する。

再使用部分⑫及び使いすて部分⑫に使用する材料は、充分な強度と堅牢さ、化学物質に対する抵

抗性及び製造の容易さを与えるべき市販の熱可塑性材料の中から選定される。好適なる実施例においては、ケース10はアクリロニトリル・ブタジエン・ステレン コポリマー(AB8)とし、貯蔵器14は適宜柔軟な熱可塑性ウレタン樹脂とし、ポンプハウジング16及びピストン18はCy/EO インダストリーズで "Cryolite G-20"なる商標を付して販売している如きアクリリックタボリマー樹脂とする。

液体薬剤を圧噴自在の貯蔵器14から出口通路16へそして針と管組立体30へと押出したいときに、制御器40はコイル42を付勢するため電流を供給する。これはアーマチュア43を図示の如く上方に運動させ、アーマチュア43の頂上表面をコア44の表面切及び45と接触するに至らしめる。これはピストン18を上方へ運動させ、室46の容積を増加せしめる。室46の容積が増加するとき、入口通路16内の逆止弁48は開き液体薬剤を貯蔵器14からポンプ室52内へ流入せしめる。この電流が中断されると、コイル42は除勢され、ばね50は図示の如くアーマ

チュア43及びピストン18を下方に押し下げて室52の容積を減少せしめる。

これは出口通路16内の逆止弁48を開きポンプ室52から針と管組立体30へ液体薬剤の流れを生ぜしめる。貯蔵器14内の液体薬剤が発んど空となつたときは、使用者は除去自在のパネル切を開き、そこにある使い捨て部分12を取り出して、液体薬剤の充満している貯蔵器をもつた新しい使い捨て部分12を挿入する。

図面の簡単な説明

第1図は本発明に係る体外薬剤注入装置の透視図、第2図は第1図示の装置の使い捨て部分の透視図、第3図は第2図の線3-3'に沿つた拡大断面図、第4図は第1図の線4-4'に沿つた断面図、第5図は第1図示の装置の使い捨て部分と再使用部分の整列を維持するため使用されるばねの透視図、第6図は第3図示の入口逆止弁の拡大図、第7図は第6図示の逆止弁の一層の拡大図、第8図は本装置用ポンプハウジングの拡大透視図で、アーマチュアは一点鎖線で示す、第9図は第2図示

の使い捨て部分のアーマチュアの側立面図、第10図は第4図示の本装置の再使用部分のソレノイドコアの拡大透視図である。

10は再使用部分、12は使い捨て部分、14はケース、16、18は除去自在のパネル、20はバッテリ、22はプログラマブル電子制御器、24はソレノイド、26はコイル、28は電磁コア、30は整列棒、32は整列表面、34は針と管組立体、36はねじ締手、38は貯蔵器、40はポンプ、42は電磁アーマチュア、44は圧噴自在プラスチックパック、46はプラスチックハウジング、48は隔膜、50はポンプハウジング、52は入口通路、54は出口通路、56はポンプ室、58は逆止弁、60は基台、62はシート、64は板ばね部分、66は停止体、68はピストン、70はばね休止体、72は板ばね、74は整列表面、76は板ばね、78はクロメットである。

代理人 伊藤
日本
印子

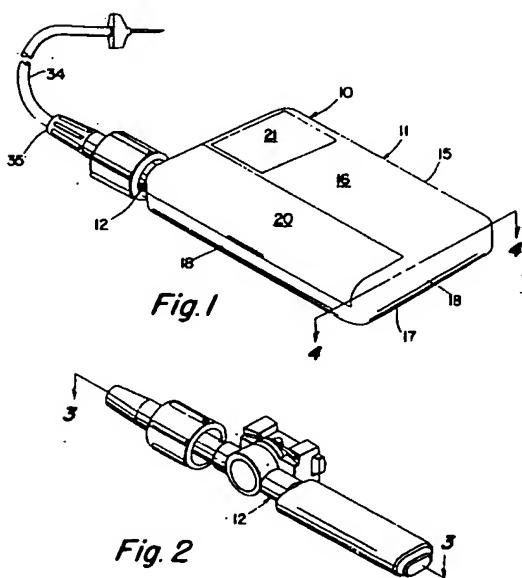


Fig. 1

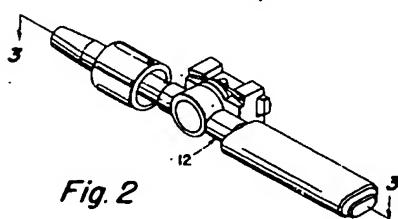


Fig. 2

